

経営比較分析表（平成30年度決算）

和歌山県 日高川町

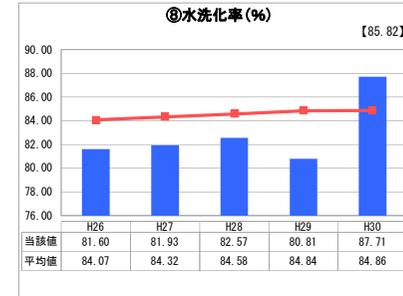
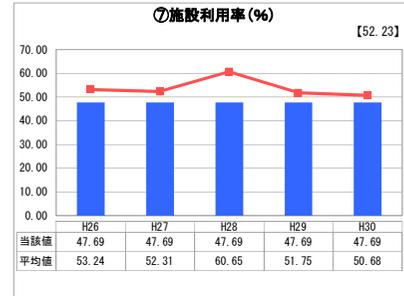
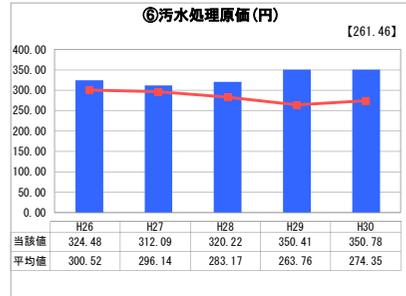
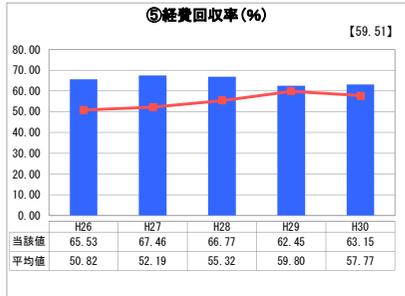
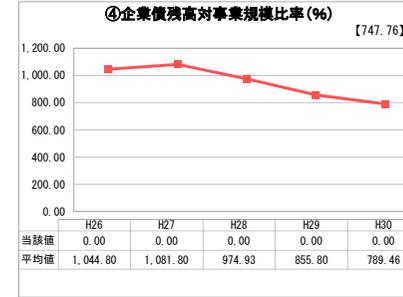
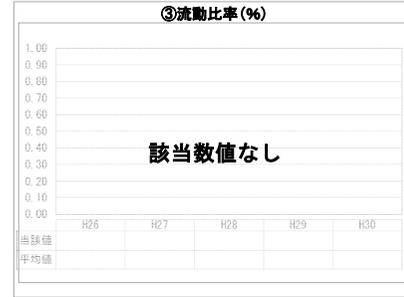
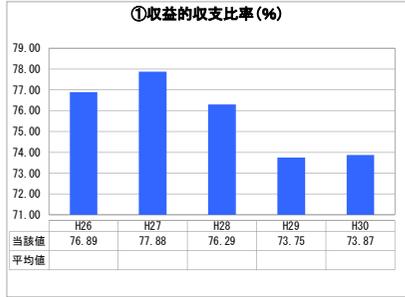
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	30.61	100.00	4,000

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,944	331.59	29.99
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,028	0.96	3,154.17

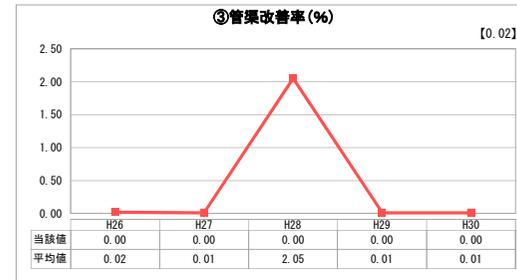
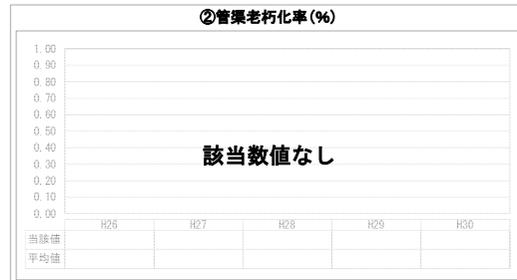
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

下水道会計（農業集落排水）においては、現状総収益を総費用及び地方債償還金が上回っており、そのため一般会計からの基準外繰入を行い、下水道事業の経営を行っている状況が続いている。

①収益の収支比率は前年同様総収益減のため数値が下がっている。④企業債残高対事業規模比率は地方債現在高合計を一般会計で負担している。⑤経費回収率を見ると汚水処理に係る費用を使用料金で賄えていない事から、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減が必要である。特に⑥汚水処理原価は全国平均及び類似団体平均と比較しても割高となっている事から、汚水処理費の削減に努める。⑦施設利用率は変わらず、加えて、⑧水洗化率についても年々数値は向上しているが、更なる接続率向上の推進及び利用状況の改善を図って行かなければならない。

2. 老朽化の状況について

現在、処理施設については、供用開始後20年を経過した施設が出てきており、また管渠については、供用開始から20年程度経過した箇所がある。またそれぞれ施設の機器類が数年以内に耐用年数に達していることから、将来的には更新・修繕費用が増加していくことが見込まれるため、計画的に状況調査を行い、必要な箇所の更新・修繕を進めて行くことが必要である。

全体総括

収益的収支比率を改善することを目標に次の取組を行う。水洗化率の向上（100%加入を目標とする。）及び下水使用料金の見直しを行い、収益を増やす。また、今後施設及び機器の修繕費用が高なると考えられるが、出来る限り汚水処理費を下げて収支の改善を図る。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。